

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学

長野県塩尻市広丘郷原1780

☎ (0263) 52-3100

www.mdu.ac.jp

1部60円

本学がドローン操縦者養成の場に

陸上競技場を主会場に開校し

ドローンの普及で地域産業の振興に貢献

物流や防災、医療などさまざまな分野で活用が広がるドローン（無人航空機）の操縦技術を学べるスクールが、本年度中にも本学で開校できる見通しとなった。神奈川県内でドローンスクールを運営する企業と連携し、本学蒼穹会が運営母体となって地域貢献活動の一環で取り組む。本学関係者もインストラクター資格を取得予定で、学内外から受講者を募り、定期的に開催していく方向で準備を進めている。

本学と連携するのは、株式会社プラネットエビエーション（東京都）が神奈川・葉山で運営する「プラネットドローンスクール葉山校」。緑豊かな環境に立地し充実した設備を有する本学が、県外でのスクール展開を模索していた同社代表取締役でスクール管理者

の原田章さんらの目に留まった。本学の杉浦雅之庶務課長と植野裕司研修歯科医は6月下旬からすでに同校でドローン研修を始めている。本学で開校予定のスクールは、原田さんらがインストラクターとして来校して開催するか、これからインストラクター資



試験運転でドローンを飛ばす植野研修歯科医（右）と原田スクール管理者



スクールで使用する DJI 社製「AIR2S」

格を取得する杉浦課長と植野研修歯科医が担当となって開催する見込みだ。

原田さんらは7月7日（木）、本学を訪れ、陸上競技場と体育館のスクールに適したエリアで、講習でも使用する中国DJI社製「AIR2S」を使って試験飛行をした。本学は信州まつもと空港の南東約7キロに位置するが飛行禁止区域ではなく、一部エリアはDJIが独自に設定する飛行制限区域ではあ

歯学部 一日体験入学を開催

在学生のプレゼンや実習で本学の魅力を発信

進学について検討中の高校生やご家族に、本学について幅広く体感してもらう「一日体験入学」が7月から本格化している。県内外から訪れた歯学部受験予定者が、学生によるキャンパスツアーや教授陣による模擬実習などを通して、本学の特色や魅力に直に触れ、キャンパスライフのイメージを膨らませている。

本学は本年度、計10回の一日体験入学を開催する。7月10日（日）に開いた3回目では、教務部長の中村浩彰教授が、本学の教育方針やカリキュラム、歯科医師国家試験で本学の新卒合格者が近年、常に全国で



歯科保存学の実習を体験する参加者

つたものの、事前申請により解除できるためスクール開校には支障がないことが確認できたという。

国内でも普及が進むドローンは、山間部や離島などの荷物の配送、警備、測量、農業、林業、水産業のほか、目視で点検できない箇所の点検、ドクターヘリと連携した救急医療資機材の配達、立ち入り困難な自然災害発生地域の状況確認など、さまざまな分野での活用に期待が高まっている。そのような状況を受けて、今年から改正航空法が適用となり、より厳しい安全基準に沿った飛行が求められるようにもなっている。

原田さんは日本



上空からドローンで撮影した本学の全景

航空の元パイロットで、「DC10」型機機長や操縦教官も務めた経験があり、航空法にも精通している。原田さんは「松本歯科大学はドローンの講習会に適した環境を備えている。ドローンは遊びの道具ではなく、いろいろな活用方法があるので、

ぜひ多くの方に関心をもってもらいたい」と語った。

本学は地域のドローン講習の拠点としてドローンを有効利用した生活の利便性の向上や地域産業の活性化に貢献していく。アドバンスコースを修了し試験飛行に参加した植野研修歯科医は「ドローンを地域の様々な分野で活用してほしいし、自分もドローンで撮影した画像や動画を使い、本学のPR活動にも貢献していきたい」と話していた。スクールには初心者向けのベーシックコース（所要2日間＝座学5時間、実技10時間）と、ベーシックコース修了者または同等レベルの人が対象のアドバンスコース（所要1日間＝座学1時間、実技3時間）、飛行経験が50時間以上の人を対象にインストラクター資格が取得できるコース（所要2日間＝座学5時間、実技10時間）がある。

する本学ならではの学生生活全般についてわかりやすく紹介。「ウイークリーテスト」が、厳しくも、学力向上に役立っていることや、高学年になるにつれて専門性を深め研究していく楽しさなどを伝え「ぜひ一緒に歯科医師を目指しましょう」と語りかけた。

キャンパスツアーには、第4学年の大谷清春君も同行し、前田さんと大谷君が参加者の質問に気軽に応じながら、講義館や実習館、キャンパスイン、大学病院、学生食堂、学生ラウンジなど案内した。

模擬実習は、実習館101実習室において、亀山敦史教授をはじめ歯科保存学講座のスタッフが「歯の穴を埋めよう」をテーマに指導した。参加した高校生らは実習する歯科大生のように白衣を身に着け、スタッフの手厚いサポートを受けながら、コンポジットレジンや光照射器

を使ったむし歯の修復治療の一端を体験した。実習で使った人工歯をストラップに加工し、記念品としてプレゼントすると、参加者たちはうれしそうに受け取っていた。個別進学相談は、中村教授と亀山教授が対応し、参加者一人一人の質問に丁寧にこたえた。

「一日体験入学」は8月以降、8月7日、21日、9月11日、10月2日、11月6日の各日曜日に開催。毎回異なった内容の模擬実習を用意している。個別の大学見学も随時対応。参加申し込みは大学ホームページから、専用の申し込みフォームで受け付けている。

遠方にお住まいの方やコロナ禍で外出しにくい方などには、ビデオ会議システムの「Google Meet」や「Zoom」を使ったオンラインでの個別相談会にも随時対応している。問い合わせは入試広報室（電話0263・54・3210）へ。

参院選に岸田不在！知られざる裏側

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授 飯島 勲

今月号は『プレジデント』8月12日号「リーダーの掟 飯島勲」より、参院選期間中に5日間外交に奔走した岸田文雄首相の活躍の舞台裏に関する記事を要約して紹介します。

7月10日に投票が行われた参議院議員選挙は与党の圧勝に終わった。岸田首相は選挙期間中、G7サミットとNATO首脳会合に出席するため、極めて異例の5日のあいだ、日本を留守にしていた結果としては大成功だったと思う。

ウクライナ情勢をはじめ、国際社会は目まぐるしい勢いで変化している。かつては、紛争などが発生した場合、大国の首脳同士が会談して解決策をさぐるケースがほとんどだった。しかし、近年は多国間の会議が重視されるようになっていく。特に距離の近い欧州各国の首脳は、多国間での会議も行っている。

今回のG7でも、各国首脳が欲談する場面が見られた。どんな話題で盛り上がりつつあるのかと思ったら、それぞれの国の言葉の話で、「やはり日本語が一

番難しい」と言われたのだという。岸田首相が「日本語は結論が最後にあるので、最後まで聞かないといけない」と説明したところ、各国首脳からは「サミットの首脳声明は日本語で出したほうがいいのでは」と反応があり、その場が笑いに包まれたとのことだ。

また、今回のG7では、ウクライナ情勢などについて国際社会の結束を示すことが目的の一つだった。このため、選挙中にもかかわらず全日程参加を決めた岸田首相に対して、議長国のドイツは最大限の配慮を示した。まず、会場となったドイツ南部バイエルン州のアルプス山脈にあるリゾート施設「エルマウ城」の中でも、山側の景色の良い部屋を日本の二国間会談用に提供してくれた。

エルマウ城の城主が日本のウイスキーが好きで多くの銘柄を集めており、城のバーではサントリーの「響21年」が振舞われた。「響」は、「ワールド・ウイ



NATO 首脳会議に出席する岸田首相（左から2番目）

に次の議長国である岸田首相が発言した。「唯一の戦争被爆国である日本の総理大臣として、広島ほど平和へのコミットメントを示すのにふさわしい場所はないと考えている、核兵器の惨禍を人類が二度と起こさないと誓いを世界に示し、G7首脳の皆さんと共に、平和のモニメントの前で平和と世界秩序と価値観を守るために結束していくことを確認したい」と来年の広島サミットに向けて意欲を語り、各国首脳から賛同された。

NATO首脳会議では、岸田首相は非加盟国の首脳としては例外的に発言の機会を得た。NATO首脳会合に、我が国を含むアジア太平洋のパートナーが参加していることは、欧州とインド太平洋の安全保障が切り離せないとの認識の表れである」と述べたうえで、「東シナ海・南シナ海で力を背景とした一方的な現状変更の試みが継続されている。ウクライナは明日の東アジアかもしれないという強い

危機感を抱いている」と、中国や北朝鮮の脅威に直面する日本の立場を説明した。そして、日本の外交の柱である「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、NATOへの協力を求めた。

先月の参議院選挙では、自民公明の政府与党と憲法改正に前向きな日本維新の会、国民民主党を加えた改憲勢力が82議席を確保し、憲法改正の国会発議に必要な「3分の2」を維持した。岸田首相は「できるだけ早く発議し、国民投票に結び付けていく」と語っている。具体的には自衛隊の明記(国防軍の設置)と緊急事態条項(言論の自由の制限など政権による基本的人権の一時停止)などが示されている。いずれも権力の強化を狙った危険なものだ。次には、歴代の政権が主張してきた「戦争ができる国」にするために目障りな憲法9条の削除が図られるに違いない。

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授 笠原 浩

子爆弾が10万人の市民の命を奪った。沖縄での戦闘では9万人の陸海軍人とともに12万人もの一般住民が死んでいる。

このような悲惨さを経験したのは日本人だけではない。戦域となった中国大陸やフィリピン、東南アジアや太平洋の島々でも生じていた。現地住民に多大な損害を与え、少なからざる犠牲者を出していることを忘れてはならない。そもそも都市に対する無差別爆撃を開始したのは日中戦争での重慶爆撃であった。占領地での日本軍による残虐行為も記録されている。陸軍中尉として中国戦線での従軍経験もある創立者は、そうした実情もご存じで、「戦争反対」を叫ばれていたのだろう。

まもなく8月15日の終戦記念日を迎える。その前の晩まで都市攻撃が続いていて、筆者は近くの町が真っ赤に燃え上がる中を防空壕で震えていたことを記憶に残している。

そうした戦争の実態を体験し、二度と繰り返してはならないと決意を固めた世代は、筆者あたりが最後で、徐々に姿を消しつつある。「歴史探偵」を自称し、「昭和史」などの数多くの著作で、かつての大日本帝国が無謀な戦争への道をひた走って亡国をもたらした経緯などを鋭く分析されてきた半藤一利氏も昨年90歳で亡くなられてしまった。

「戦争ができる国」にしてはならない

こうした状況を好機ととらえ、近隣諸国の脅威を言い立てるなどで、世論の流れを変えようと企んでいるのが、歴代の自民党政権である。

「戦争ができる国」にして利益を得るのはどんな連中であり、その陰で犠牲になるのはだれなのかを、よく考えてみるべきだ。

川和忠治特任教授（昭和大学名誉教授）が第4学年「クラウンブリッジ補綴学」で講義



印象採得について解説する川和先生

6月16日（木）本学特任教授の川和忠治先生をお招きして、講義館201教室で第4学年のクラウンブリッジ補綴学の講義が行われた。

川和先生は日本補綴歯科学会の副会長や昭和大学歯科病院長などを歴任され、現在は

昭和大学名誉教授となられている。特筆すべきは、その業績だけでなく、病院長を務められた期間に歯科病院の黒字転換を成し遂げるなど、経営手腕も優れた先生であるという点である。

講義に先立ち、本学病院を視察され、特別専門外来や入院病棟などをはじめとした優れた施設に対してたいへん興味を示されていた。

今回の講義内容は、印象採得であった。クラウンブリッジにおける適合とは、内面に対する適合、すなわち支台歯に対する適合と、外面に対する適合（すなわち咬合に対する適合（外面に対する適合）の2つに分かれること、そして従来の印象材を使用した間接法では製作されたクラウンを口腔内に試適した際に、0.1ミリ（100μm）

高くなることを解説された。

歯科衛生士の仕事に理解を深める

衛生学院 一日体験入学

衛生学院の一日体験入学が、6月11日（土）と7月23日（土）の全2回、開催された。

県内全域から、また隣接県からも複数の参加があり、両日で計53組、94人が参加し、学院での学びや歯科衛生士の仕事に理解を深めた。両日とも、笠原悦男学院長が本学の充実した教育環境や歯科衛生士のやりがい、魅力について話し、島田陽子教務主任は、歯科衛生士の仕事を「プロの立場から、口腔内の健

康を通して、人々の前身の健康づくりをお手伝いする仕事」などわかりやすく説明した。

模倣授業では、コロナ禍であることを考慮し、映像を見せながら行う方式とし、参加者にもわかりやすい内容で行った。

学内見学では、本館西棟3階の教室、実習室、体育館、講義館を見学し、最後に原聖司衛生学院課長より、推薦選抜、総合型選抜、一般選抜についての説明がなされた。



本館3階実習室を見学する参加者

今年度より、募集定員を50名と拡大し、学費も改定された事により、一日体験入学は参加申し込み開始からほとんど定員に達する人気となった。

歯科衛生士の求人は、全国的に安定した状況が続いており、本学の2021年度実績の求人倍率は29.9倍と、引く手数多の状況で、この状況は今後も続くと思われる。

6日には広島でたった1発の原

病院だより vol.42

榎川診療所 柳沢康敏 所長



柳沢康敏医師

本学が、塩尻市木曽平沢にある市国民健康保険榎川診療所の診療業務を受託し、4月から本学大学病院内科の柳沢康敏医師らの派遣を始めて3カ月余りが経過した。週1回のみ開所です。十分な診療体制とはいえないが、柳沢医師はスタッフと力を合わせ、地域により貢献できる方法を模索している。

で、中でも80代、90代が目立つ。慢性疾患の患者が多いが、別の医療機関にも通いながら、どうしても心配なことや気になることなどを確かめたり相談したりする目的で受診する人も少なくないという。

診療所は、1991年に旧榎川村時代に開所し、合併で市に引き継がれた。2014年から指定管理者（医療法人）が運営

しているが、医師不足などを理由に撤退。昨年4月から1年間、診療できない状態となっていた。地域住民有志の再開要望もあり、市は直営方式で再開することを決め本年度、本学に業務を委託した。診療所は現在、胃腸科、内科、小児科を掲げ、医師1人、看護師2人、市が雇用する事務スタッフ1人の体制で、毎週水曜日に開いている。

柳沢医師は「週1回の診療では対応が難しいことも多いが、患者さんから『車に乗れないので遠くの病院には行けない。診療所があるから助かる』などの声を聞くと、少しはお役に立てているのかなと思う」という。受診者は一人暮らし高齢者が多く、痛みや不調があっても周囲の人に相談することが難しい。中には我慢しすぎて症状を悪化させてから受診する人もいるようだ。柳沢医師は「自分の

体調や症状が『いつもとなんとなく違う』と感じたら、早めに受診してほしい」とし、「患者さん一人一人に寄り添って、できる限りの対応をしていきたい」と話している。

診療は毎週水曜日、午前9時～正午と午後2～5時。問い合わせは診療所（電話0264・34・3500）へ。

塩尻市国保榎川診療所

世界最大?の Hanau 型咬合器が教室に登場 学生たちは興味津々で操作学ぶ



巨大半調節性咬合器を実際に動かして講義

7月7日（木）、第6学年の「総合講義」の授業において、世界最大と思われる10倍大サイズの半調節性咬合器が登場した。故・橋本京一先生（歯科補綴学第一講座初代教授）の発案で1980年代に設計・製作されたもので、その大きさを目にした学生たちは歓声を上げ、通常サイズの咬合器と比較しながら操作法を学んだ。

咬合器の構造を理解するためには、実物を見て、触ることが重要である。しかし、通常の咬合器を講義に持参しても、講義室は広く、全ての学生に対して視覚的に説明することは、咬合器の大きさから困難であった。

そこで、歯科補綴学講座では、本学において1980年代前半に製作された、世界最大と思われる「10倍大サイズの Hanau H20 型半調節性咬合器」を用いて、講義を行った。

本咬合器は、Hanau H20 型半調節性咬合器をそのまま約10倍に拡大したもので、開閉口運動だけでなく、矢状顎路角、非作業側の側方顎路角、切歯路傾斜角の調節性も再現されているのが特徴で、歯科補綴学第一講座（有床義歯補綴学担当）初代

教授であられる故・橋本京一先生の発案で、当時助教教授（現在の准教授）であった特任教授の鷹股哲也先生が中心となり、具体的な設計・製作されたものである。

講義冒頭では、咬合器に関する歯科医師国家試験問題の傾向や、補綴が苦手となる一因の下顎運動に関しての要点と咬合器との関連性を吉田より説明し、その後、樋口大輔教授による半

「ママフェスまつもと2022」に参加 むし歯予防や楽しいブラッシングを指導

松本市の中心市街地を巡って親子で楽しむ回遊型参加イベント「ママフェスまつもと2022」（実行委員会主催）が7月9日（土）、信毎メディアガーデンを主会場にして開催された。本学も専用ブースを設けて参加。教員や歯科衛生士らが、

無料でむし歯予防の知識や乳幼児のブラッシングのポイントなどを助言、指導し、歯の健康保持の大切さや、本学の取り組みを発信した。

主会場の3階に設けた本学ブースは、歯科健診と歯科相談、歯科矯正相談、歯磨き指導の3部門と、株式会社モリタの歯科用品販売部門で展開し、午前10時の開場と同時に多くの家族連れでにぎわった。

歯科健診と歯科相談の部門は、ブースを統括する小児歯科学講座の中村浩志准教授と、生

無料でのむし歯予防の知識や乳幼児のブラッシングのポイントなどを助言、指導し、歯の健康保持の大切さや、本学の取り組みを発信した。

化学講座の中村美どり准教授の2人（共に日本小児歯科学会専門医・指導医）が担当し、1組ずつ丁寧に対応した。

中村美どり准教授は「歯磨きを嫌がる子供にどう接したらよいのか」といった相談が目立つと、

「歯磨きを嫌がる子供にどう接したらよいのか」といった相談が目立つと、

「歯磨きを嫌がる子供にどう接したらよいのか」といった相談が目立つと、

「歯磨きを嫌がる子供にどう接したらよいのか」といった相談が目立つと、

「歯磨きを嫌がる子供にどう接したらよいのか」といった相談が目立つと、

「歯磨きを嫌がる子供にどう接したらよいのか」といった相談が目立つと、

日本顎口腔機能学会第67回学術大会を本学で開催 人工知能を用いた最先端研究を紹介

「日本顎口腔機能学会第67回学術大会」が5月28日（土）、29日（日）の両日、本学図書館学生ホールで開催された。

大会長は総合歯科医学研究所・増田裕次教授が務め、特別講演は、筑波大学の鈴木健嗣教授が、人工知能を用いた装着型機器による摂食・嚥下分野への

一般口演は、本学からは歯科

一般口演は、本学からは歯科

一般口演は、本学からは歯科



講演する松尾教授

ランチョンセミナーは、東京医科歯科大学大学院の松尾浩一郎教授が「カムカム健康プログラム」の社会実装に向けた取り組みを紹介した。

論が行われた。

その後、半調節性咬合器の操作法の概要をまとめたビデオを供覧し、講義を終了した。

講義は4時間に行ったため、学生にとって貴重な Day 24・自学自習のための総合講義演習の時間を使用させていた

講義は4時間に行ったため、学生にとって貴重な Day 24・自学自習のための総合講義演習の時間を使用させていた

講義は4時間に行ったため、学生にとって貴重な Day 24・自学自習のための総合講義演習の時間を使用させていた

講義は4時間に行ったため、学生にとって貴重な Day 24・自学自習のための総合講義演習の時間を使用させていた



ママフェスまつもとの本学ブース

対しては、歯磨きの方法をどうにか工夫して、1歳半から2歳までには歯磨きを習慣づけられるようにしてください」などとアドバイスしていた。保護者たちは、日頃感じていた歯にまつわる疑問や悩みをじっくりと相談していた。

歯科矯正相談の部門は、矯正歯科診療助手の土居洋介さん、杉本万緒さん、吉田美加さん、宮脇理功さんが相談に応じた。土居さんは、歯科医師や歯科診療に親しみをもってもらおうと、ユニークな被りもので訪れた子供たちを迎え、楽しませた。

歯磨き指導は、歯科衛生士の西窪結香士長と辻さやかさん、宮尾琴音さんが担当し、参加した親子が実際に歯磨きをする様子



訪れた親子に歯磨きを指導

訪れた親子に歯磨きを指導

Alumni News

松本歯科大学校友会

校友の非常勤講師の先生方が 保存修復学実習で学生を指導



本館右から斎藤先生、石井先生、筆者、辻内先生

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本学では2020年度以降、県外在住の非常勤講師の先生方に対して教育活動への参加要請を自粛してきた。しかし今年に入り、4月中旬頃から全国的に感染者数の減少傾向がみられたことを受け、第4学年前期の保存修復学実習では5月上旬以降、参加要請自

粛の解除を行うことを決め、4月下旬に各非常勤講師に連絡を行った。急な連絡であったにもかかわらず、6月14日(火)の第11回実習では石井敏裕非常勤講師(1期生)、斎藤俊樹非常勤講師(7期生)、辻内千恵非常勤講師(34期生)の3名が参加され、ファントムを用いたコンポジッ

トレジンインレー修復の窩洞形成からレジンコーティング、仮封に至る一連の流れに関するシミュレーション実習に対して、学生に直接指導をいただいた。保存修復学実習では近年の修復材料の進歩やメタルフリー化が進む時代背景の変化、共用試験や歯科医師国家試験の傾向などを考慮し、2020年度から実習形態や教育内容を大幅にリニューアルした。特に2019年度までは本実習でコンポジットレジンインレー修復を扱って

いなかったため、非常勤講師に戸惑いや遠慮が生じることを危惧していたが、いずれの非常勤講師にも学生に対して的確なアドバイスをしていた。また、学生側も非常勤講師に対して積極的に質問や意見を求めるなど、実習形態をとることによる双方向型教育の長所が存分に発揮できた。

この回のほかに、石井非常勤講師は「歯のほかに、石井非常勤講師」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

お知らせ

第16回信州公衆衛生学会総会

8月27日(土)、本学病院の川原一郎教授が大会長を務め、「つくる健康まもる社会」をテーマに、本学図書館2階学生ホールを拠点会場にオンライン形式で開かれる。

川原教授が「歯科健診からみえる生活習慣病」の演題で大会

講師と辻内非常勤講師には7月12日の第15回、斎藤非常勤講師には5月17日の第7回および7月5日の第14回(ロールプレイング実習)、春山重貴子非常勤講師(東京歯科大学保存修復学

講座講師)には5月10日の第6回および7月5日の第14回実習時にもそれぞれ参加いただくことができ、非常に充実した実習となった。

(歯科保存講座 教授 亀山敦史)

写真部が梅池自然園で撮影会 残雪の風景や水芭蕉を題材に楽しむ

私たち写真部は名所・景勝地に出かけて写真を撮る活動を定期的に開催しております。

今回は6月18日(土)に、梅池高原にある「梅池自然園」という自然園に行ってみました。

残雪が目立つ園内でしたが、水芭蕉が見ごろでして、部員たちも思い思いに水芭蕉をはじめとする植物の写真を撮っていました。

以前にも一人で訪ねたことがあったのですが、その時とは全く違う光景には正直驚かされました。想像以上の残雪から、前回見つけた見晴らしのいい場所へ進むのは危険だということ、途中までは進んだものの引

き返さざるを得なかったことが非常に心残りでした。

長野県内には素敵な名所がたくさんありますし、これからの時期には避暑地としても快適な場所ですので、ぜひ県内各地を訪れてみてはいかがでしょうか。

(第6学年 写真部 網野嵩之)



梅池自然園の水芭蕉

ご遺骨9柱を納骨堂に納め 謹んで御霊を弔う 2022年度納骨式

6月8日(水)の午後、大学墓地において2022年度の納骨式が挙行された。今回で3度目の解剖諸霊位慰霊祭中止を受けての開催となる。

長講演を行う。また塩尻市の広仁堂医院院長・百瀬篤医師が、「行政管理栄養士による国保特定健診後の重症化予防への支援」指導から支援へ 中年独身男性症例を中心に」をテーマに特別講演する。

日本歯科放射線学会第234回関東地方会・第41回北日本地方会・第29回合同地方会

本学歯科放射線学講座の田口明教授が大会長・担当世話人を

6月8日(水)の午後、大学墓地において2022年度の納骨式が挙行された。今回で3度目の解剖諸霊位慰霊祭中止を受けての開催となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

務め、8月27日(土)、松本市のアルピコプラザホテルで開かれる。準備委員長は同講座の黒岩博子講師。

学会は一般演題の口演後、朝日大学歯学部口腔病態医療学講座の勝又明敏教授と田口教授が対談を行う。信州大学医学部外科学教室乳腺内分泌外科学分野の伊藤研一教授による特別講演もあり、歯科医師や歯科医療関係者、約120人の参加が見込まれている。

2021年度後期、人体解剖学実習でお世話になった方々のご遺骨9柱を納骨堂に収め、寺方(曹洞宗寶松山西福寺)の説経の下、参列した教職員一同が墓前に手を合わせ礼拝し、お焼香を行い御霊を弔った。

本来ならば、解剖諸霊位慰霊祭は第1学年から第3学年までの学生が参列して執り行われ、学生たちにとって故人やご遺族の篤志・見返りのない愛情に直接触れ、医療人を目指す者としての重責を自覚し、ご尊霊に対して謹んでご冥福をお祈りする貴重な機会となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

祭は第1学年から第3学年までの学生が参列して執り行われ、学生たちにとって故人やご遺族の篤志・見返りのない愛情に直接触れ、医療人を目指す者としての重責を自覚し、ご尊霊に対して謹んでご冥福をお祈りする貴重な機会となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

2021年度後期、人体解剖学実習でお世話になった方々のご遺骨9柱を納骨堂に収め、寺方(曹洞宗寶松山西福寺)の説経の下、参列した教職員一同が墓前に手を合わせ礼拝し、お焼香を行い御霊を弔った。

本来ならば、解剖諸霊位慰霊祭は第1学年から第3学年までの学生が参列して執り行われ、学生たちにとって故人やご遺族の篤志・見返りのない愛情に直接触れ、医療人を目指す者としての重責を自覚し、ご尊霊に対して謹んでご冥福をお祈りする貴重な機会となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

祭は第1学年から第3学年までの学生が参列して執り行われ、学生たちにとって故人やご遺族の篤志・見返りのない愛情に直接触れ、医療人を目指す者としての重責を自覚し、ご尊霊に対して謹んでご冥福をお祈りする貴重な機会となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

祭は第1学年から第3学年までの学生が参列して執り行われ、学生たちにとって故人やご遺族の篤志・見返りのない愛情に直接触れ、医療人を目指す者としての重責を自覚し、ご尊霊に対して謹んでご冥福をお祈りする貴重な機会となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

祭は第1学年から第3学年までの学生が参列して執り行われ、学生たちにとって故人やご遺族の篤志・見返りのない愛情に直接触れ、医療人を目指す者としての重責を自覚し、ご尊霊に対して謹んでご冥福をお祈りする貴重な機会となる。

また、慰霊祭とは別に、順次ご遺族宅に直接ご遺骨をお届けし、謝意と献花と共に返骨も行う。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。

本講演において、瀬戸先生は、医歯二元論から出発した日本の歯科医療と歯学教育研究の実態と医科歯科連携の必要性について概説された。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

また、総合南東北病院に設置されている陽子線治療センターにおけるホウ素捕捉中性子線療法(BNCT)について説明され、総合南東北病院と本学の間で若い人材の交流の活発化を行い、臨床では「ホスピタルシェア」を有効に実行し、学際的探索研究を国際的に活発化して「サイエンスレベルの向上と標準化」を目指すという方向性を提案された。ホスピタルシェア構想とは、難治疾患の治療技術や施設を国際的に共有して最適な最新治療が患者の希望により受けられるシステムを構築しようとするものである。今後、遠隔画像診断を基盤とした診断と治療方針の決定と治療が受けられるようなシステムの完成が期待される。

さらに、理事長を務める国際歯科医療安全機構の活動として、口腔はSARS-CoV-2ウイルス感染の交差点であることから、「洗口(うがい)」によりSARS-CoV-2ウイルスの感染価が2ケタ以上下がることを紹介され、洗口と口腔ケアの重要性を強調された。

2時間にわたる講演は、新しい医科歯科連携の成功を目指す、瀬戸先生のとばしる情熱そのものであった。

総合南東北病院 瀬戸院一先生が講演 「新しい医科歯科連携の構築」

5月27日(金)、総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸院一先生をお迎えし、大学院セミナーを開催した。

瀬戸先生は、東京医科歯科大学を卒業後、バーゼル大学医学部顎顔面外科学教室に留学、鶴見大学歯学部第1口腔外科学講座教授に就任され、日本口腔外科学会理事長、日本顎顔面インプラント学会理事長、日本学術会議会員、鶴見大学歯学部附属病院病院長および鶴見大学歯学部歯学部長を歴任された。